

紅梅會會報



第 105 号

会長あいさつ

66 回生 茶園 美香



猛暑の夏が終わり、秋の気配を感じる頃となりました。熊本地方にお住いの会員の皆様、その後の復旧は進んでおりますでしょうか？一日も早い復興を願っております。

この夏は、リオでのオリンピックで活躍する日本人から元気をいただきました。その一方で、猛威を振るった大型台風の上陸による各地での被害、とりわけ岩手、北海道では大きな被害が発生しております。会員の皆様のお住まいの地域に被害がないことを願っております。

私は、第 73 回紅梅会総会において、三上れつ前会長を引き継ぎ、会長の任を仰せつかりました茶園美香（66 回生）と申します。慶應での看護教育が始まって 2018 年に 100 年を迎えるこの時期に会長をお引き受けすることに、責任の重さを感じております。会員の皆様のご指導、ご協力をいただきながら、努めてまいりたいと思います。

さて、去る 5 月に開催された紅梅会総会では、「慶應看護 100 年のあゆみ」の年表をいただき、改めて慶應看護の 100 年の歴史を振り返りました。1918 年に医学部附属看護婦養成所として開講して以来、時代の要請に応じて教育課程が変更され、2001 年には、最高学府としての大学（看護医療学部）が開設され、すでに 15 年が過ぎました。卒業生がさまざまな場で活躍していることや「慶應で看護をしっかりと教えていただいたことが実践の中で生かされている」という話を聞き、慶應の看護教育を誇らしく思います。そして、2018 年には、開学 100 年を迎えます。これまで諸先輩方が築いてくださった慶應看護の歴史を引き継ぎながら、新しい考え方を取り入れ、2018 年度を出発点として新しい歴史を刻み、未来の歴史に残る一歩がふみだせるように、看護医療学部と協力をしながら、紅梅会の活動を進めてまいりたいと考えております。皆様方にもこれまで以上のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

これからの 1 年間における活動のポイントを 2 点ご紹介いたします。

まず、「慶應看護 100 年記念事業」についてです。この事業は、看護医療学部と共同して 2014 年 7 月より、「慶應看護 100 年記念事業資金」として募金活動を行ってきました。募金期間は、2017 年の 3 月としていましたが、2016 年 5 月 31 日には目標額（2000 万円）を達成することができました。皆様方の、母校へのご期待を強く感じたところでございます。ご寄付をいただきました皆様に心より御礼申し上げます。今後は、2018 年 5 月に開催が予定されております慶應看護 100 年記念行事を具体的に計画してまいります。できるだけ早い時期に計画内容について情報提供し、多くの会員の皆様方が記念行事にご参加いただけるようにしたいと考えております。

そして 2 点目は、慶應義塾大学医学部創立 100 年記念事業の「新病院棟建設事業募金」への募金活動です。医学部は、看護に先駆け 2017 年に創立 100 年を迎えます。現在、記念事業の一つとして、新病院棟の建設が 2018 年の完成を目指して着々と進んでおり、この建設事業の募金も活発に行われております。慶應義塾における看護教育を振り返りますと、節目には医学部の諸先生方から看護教育における貴重なご助言を頂きました。また、講義あるいは臨床実習などにおける病棟での熱心なご指導も頂きました。慶應看護は、こうした先生方のご協力をいただきながら、医学教育と両輪のごとく発展してきたといえます。新病院建設事業には、「医看薬の連携による世界を先導する医療人の育成」も含まれています。2011 年よりスタートしている 3 学部合同教育プログラムを実施できる環境が院内にも整備される予定です。このたびの会報に「新病院棟建設事業募金のお願い」を同封させて頂きました。会員の皆様のご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

秋号の主な内容

- ◆第73回紅梅会総会の報告 2ページ
- ◆慶應看護 100 年記念事業支援活動報告 2ページ
- ◆慶應義塾大学病院のトピックス 4ページ
- ◆看護医療学部だより 5ページ
- ◆^{世代をつなぐ}「Link age」活躍する同窓生 5ページ
- ◆新入会員の紹介 6ページ
- ◆第39回紅梅会研修会のお知らせ 6ページ
- ◆同窓会報告 7ページ

第73回 紅梅会総会の報告

第73回紅梅会総会報告

書記 短10回生 寺島 比呂子

2016年5月8日、67名の同窓生の方々にご出席いただき、東京ガーデンパレスホテルにて、第73回紅梅会総会を開催いたしました。今年も厚生女子学院28回生から看護医療学部10回生まで、幅広い年齢層の方々にご参加いただき、盛会のうちに無事終了いたしました。講演会では、「健康寿命をのばす食事への工夫」というテーマで、元慶應義塾大学病院食養管理室 管理栄養士である鈴木和子先生にご講演をしていただきました。健康のための食事のとり方について、大変分かりやすくお話ししていただき、参加者は興味深く講演を聴いておられました。その後、前山正子さん（57回生）による乾杯の御挨拶の後、懐かしい学生時代の思い出話や近況報告で盛り上がりしました。

また、事業計画として、「慶應看護100年事業支援活動」が目標を達成できたため、今後は2017年の医学部創立100年記念事業である「新病院棟建設事業」への寄付を推進していく事、連合三田会への参加を行う事などが承認されました。

世代を超えた交流に、瞬間に時間は過ぎていきました。閉会時には、参加者全員での記念撮影を行い、素敵な思い出を写真にのこす事が出来ました。今回ご参加いただいた同窓生の皆様、並びに同窓会を開催するにあたってご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。来年度も紅梅会の発展に寄与できるよう、企画して参りたいと考えております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

紅梅会総会に参加して

67回生 川畑 貴美子



初夏を思わせる母の日、第73回紅梅会総会に参加しました。総会に参加したのはいつの頃だったのか、遠い記憶の奥から探してみると、ずっと以前に院内で開催されていた時代でした。私は慶應義塾大学病院で26年、看護医療学部で7年、慶應看護の臨床と教育現場で育ててもらったと思っています。現在は埼玉県立大学で看護教育に携わって9年になり、外から慶應看護を応援しています。

受付では看護医療学部の教え子達に迎えられ、なんとも不思議な感じがして、月日が経っているのを実感しました。会場に入ると、臨床時代の上司、同僚、後輩、懐かしい方々とお会いすることができ、若かりし日の自分にタイムスリップしたような感じでした。

総会の締めと同窓生全員で歌った「慶應看護婦の歌」が印象的でした。歌詞の「かがやきあれよ慶應の みのりの道にわれら在り」と最後の部分は、慶應看護が受け継がれてきた絆の強さを感じ、何と表現したらよいのか胸が熱くなる思いでした。

慶應看護教育は、2018年100周年を迎えます。慶應看護教育を受けた者自身が慶應看護の一員であることに誇りを持ち、未来に向かって決意を新たに、いつまでも心の拠り所であることを願っています。



慶應看護 100 年記念事業支援活動報告

藤村龍子委員長の下に2014年度紅梅会総会後から開始されました本活動のこれまでの特別委員会活動についてご報告申し上げます。

紅梅会会員、看護医療学部教職員及び関係者の皆様の多大なるご協力のおかげで、2016年4月末に当面の目標額2000万円に達することができました。1年目に約1200万円、2年目に約800万円をご寄付いただきました。2年間という短期間にもかかわらず、皆様から多くのご寄付を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。

2018年の慶應看護100年に向けて開始されましたこの委員会は、卒業生5名の委員が2年間にわたり、ご寄付の入金チェックと本部への送金等の作業を行ってまいりました。中でも短大7回生の滝田結香さんと事務局の浅田さん（68回生）には毎回多大なご尽力をいただき、スムーズな活動ができましたことをご報告し、紙面を借りて感謝申し上げます。
(慶應看護100年記念事業支援活動委員長 60回生 菅原 スミ)

2015年度 収支決算報告書

2015年4月1日から2016年3月31日まで(単位:円)

△は減額を表す

科目	予算額	決算額	差異	備考
1. 事業活動収入				
1) 会費収入	3,700,000	1,912,000	△ 1,788,000	
(1) 終身会費	3,000,000	1,320,000	△ 1,680,000	
(2) 年会費	700,000	592,000	△ 108,000	
2) 総会参加費	1,000,000	589,500	△ 410,500	
3) 広告料収入	50,000	80,000	30,000	
4) 寄付金収入	0	2,000	2,000	
5) 雑収入	10,000	16,964	6,964	
(1) 預金受け取り利息	10,000	5,564	△ 4,436	
(2) その他	0	11,400	11,400	名簿代他
事業活動収入計	4,760,000	2,600,464	△ 2,159,536	※1
2. 事業活動支出				
1) 会議費支出	1,672,000	1,176,152	495,848	※2
(1) 総会関連費	1,200,000	836,704	363,296	
(2) 役員委員会関連費	472,000	339,448	132,552	
① 役員会	10,000	54,245	△ 44,245	
② 役・委員会	180,000	136,878	43,122	
③ 編集委員会	100,000	52,509	47,491	
④ 準備委員会	40,000	7,414	32,586	
⑤ 研修委員会	60,000	51,181	8,819	
⑥ 役員推薦委員会	2,000	0	2,000	
⑦ ホームページ委員会	10,000	2,574	7,426	
⑧ 慶應看護100年記念事業委員会	70,000	34,647	35,353	
2) 事業費支出	3,733,332	1,700,679	2,032,653	
(1) 研修会費	50,000	63,809	△ 13,809	
(2) 会報発行費	1,400,000	1,406,114	△ 6,114	
(3) 慶應看護100年記念事業費	2,283,332	230,756	2,052,576	※3
3) 管理費支出	1,380,000	1,265,814	114,186	
(1) 人件費	900,000	934,998	△ 34,998	
(2) 通信費	180,000	153,032	26,968	
(3) 消耗品等費	200,000	139,784	60,216	
(4) ホームページ業務委託費	100,000	38,000	62,000	
4) 卒業記念費支出	120,000	96,633	23,367	
5) 看護医療学部支援関連費	20,000	0	20,000	
6) 連合三田会関連費	30,000	23,000	7,000	
7) 予備費	88,000	0	88,000	
事業活動支出計	7,043,332	4,262,278	2,781,054	
慶應看護100年記念事業費を除いた決算額	4,760,000	4,031,522	728,478	※4

- ※1 終身会費・年会費共に予想人数を下回ったため会費収入は予算額に達することはできませんでした。
 ※2 会議費支出は各委員会の努力もあり支出を抑えることができました。
 ※3 慶應看護100年記念事業費の用途は基金趣意書等の印刷代、郵送代、募金の振込代です。残額はすべて2016年度に繰り越します。
 ※4 慶應看護100年記念事業費は資産から運用しているものであり、それらを引いた額を示しています。これが2015年の実際の会費の収支です。

2016年度 収支予算(案)

2016年4月1日から2017年3月31日まで(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	差異	備考
1. 事業活動収入				
1) 会費収入	3,700,000	3,700,000	0	
(1) 終身会費	3,000,000	3,000,000	0	30,000×100人
(2) 年会費	700,000	700,000	0	1,000×100人
2) 総会参加費	850,000	1,000,000	-150,000	※1
3) 広告料収入	65,000	50,000	15,000	
4) 寄付金収入	0	0	0	
5) 雑収入	5,000	10,000	-5,000	※2
(1) 預金受け取り利息	5,000	10,000	-5,000	
(2) その他	0	0	0	
事業活動収入計	4,620,000	4,760,000		
2. 事業活動支出				
1) 会議費支出	1,522,000	1,672,000	-150,000	
(1) 総会関連費	1,000,000	1,200,000	-200,000	※3
(2) 役員委員会関連費	522,000	472,000	50,000	
① 役員会	10,000	10,000	0	
② 役・委員会	180,000	180,000	0	
③ 編集委員会	100,000	100,000	0	
④ 準備委員会	40,000	40,000	0	
⑤ 研修委員会	60,000	60,000	0	
⑥ 役員推薦委員会	2,000	2,000	0	
⑦ ホームページ委員会	110,000	10,000	100,000	※4
⑧ 慶應看護100年記念事業委員会	20,000	70,000	-50,000	※5
2) 事業費支出	3,542,576	3,733,332	-190,756	
(1) 研修会費	90,000	50,000	40,000	※6
(2) 会報発行費	1,400,000	1,400,000	0	※7
(3) 慶應看護100年記念事業費	2,052,576	2,283,332	-230,756	※8
3) 管理費支出	1,380,000	1,380,000	0	
(1) 人件費	900,000	900,000	0	
(2) 通信費	180,000	180,000	0	
(3) 消耗品等費	200,000	200,000	0	
(4) ホームページ業務委託費	100,000	100,000	0	
4) 卒業記念費支出	120,000	120,000	0	
5) 看護医療学部支援関連費	20,000	20,000	0	
6) 連合三田会関連費	30,000	30,000	0	
7) 予備費	58,000	88,000	-30,000	
事業活動支出計	6,672,576	7,043,332	-370,756	※9 ※10

- ※1 2015年度の実績から再検討し、前年度より減額しています。
 ※2 雑収入は預金利息、名簿販売代などです。
 ※3 前年度、前々年度で1,000,000円以内で収まっていた。今年度の委員会メンバーが慶應義塾大学病院以外で勤務されている方が多いことから増額となっている。
 ※4 講師代が増額となっているため。
 ※5 慶應看護100年記念事業費初年度計上額3,000,000円(資産より)から、2014-2015年度支出分を引いた額です。
 ※6 資産で運用する慶應看護100年記念事業費が含まれています。
 ※7 慶應看護100年記念事業費以外の本年度の事業活動費支出予算額は4,620,000円で、資産以外の事業活動収入で運用する予定です。
 ※8 慶應看護100年記念事業費以外の本年度の事業活動費支出予算額は4,620,000円で、資産以外の事業活動収入で運用する予定です。
 ※9 慶應看護100年記念事業費以外の本年度の事業活動費支出予算額は4,620,000円で、資産以外の事業活動収入で運用する予定です。
 ※10 慶應看護100年記念事業費以外の本年度の事業活動費支出予算額は4,620,000円で、資産以外の事業活動収入で運用する予定です。

慶應義塾大学病院の トピックス

1. 2016年4月看護師採用状況

新採用者：121名（うち男性看護師6名） 新卒：120名（看護医療学部66名） 経験者：1名
北日本出身者6.6% 東日本出身者81.8% 西日本出身者11.6%

2. 職員キャリア開発センター開設

7月1日に、病院職員のキャリア支援を目的とした「職員キャリア開発センター」が設置されました。前看護部長の鎮目美代子がセンター長を務めております。医療系専門職の人材採用からキャリア支援までを目的としています。

3. 慶應義塾大学病院が、医療法に基づく「臨床研究中核拠点病院」に承認されました

2016年3月25日付で念願であった臨床研究中核拠点病院の承認を受けました。臨床研究中核病院の要件は、日本発の革新的な医薬品・医療機器・医療技術の開発に必要な質の高い臨床研究や治験を推進する役割を担う病院です。承認にあたり、当院は「患者目線がない」という指摘を受け、2015年10月から外部委員4名のアドバイス会議を毎月開催し病院機能改革を進めてきました。

主な取り組みは、患者さんが相談しやすい環境整備として「総合相談窓口」を開設しました。病気のご相談から治験・臨床研究のご相談など様々な相談に対応しています。次に「混雑の緩和」です。外部委員から「混雑が当たり前になっていませんか」の指摘を受け、改善に取り組みました。その結果、初診の受付時間、会計や薬の待ち時間が改善しています。更に患者さんの受診環境を整えるために、2016年5月からは、内科外来の3箇所ブロック受付を開設し、診察室前の相談、待ち時間の改善に取り組んでいます。

病院スタッフ一人ひとりが、患者さん中心の医療を実践していくために一丸となって今後も取り組みを継続していきます。

(看護次長 87回生 加藤 恵里子)



総合相談窓口

4. 臨床試験病棟開設後の取り組み

平成23年度に厚生労働省が推進した「早期・探索的臨床試験拠点整備事業」で全国5箇所の医療機関のひとつとして当院が選ばれました。この事業の一環として平成25年10月に画期的な新薬の開発を目的とした臨床試験病棟が開設されました。新薬の開発の最終段階では、健常人や患者さんの協力によって、人での安全性と効果を調べます。この段階を「臨床試験」と呼び、将来の患者さんに役立つ知識を獲得することが主たる目的です。

開設準備は、臨床研究コーディネーター経験者1名を含んだ看護師4名のスタートでした。試行錯誤の中、備品の選定・手順書の作成等に追われる毎日でしたが、徐々に看護師の人員も増え、「臨床研究中核病院」承認後の平成28年4月からは15名の所帯となりました。有難い事に、配属された看護師のモチベーションは高く、皆、臨床試験病棟の看護師として必要な知識と技術の習得に余念がありません。当面の課題は、臨床研究中核病院が求める「国際水準の臨床研究等の中心的な役割を担う病院」になれるように、その役割を担えるスタッフを育成することです。スタッフと共に、より質の良い試験が実施出来る病棟にしていきます。

(臨床試験病棟看護師長 87回生 渡邊 珠子)



臨床試験病棟での研修の様子

慶應義塾赤倉山荘 www.sanshikai.jp/akakura/index.html

赤倉山荘に泊まってみませんか？

雄大な自然、豊富な湯量を誇る温泉、数多くのスポーツ施設に囲まれた慶應義塾赤倉山荘には、美食・温泉はもちろんのことゴルフ、スキー、テニス、トレッキングなど季節ごとの楽しみ方があります。合宿・研修会はもちろん、ご家族やお友達と赤倉山荘へ。塾関係者のご利用をお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ
赤倉山荘
電話：0255-87-3900 FAX：0255-87-3905
e-mail：ak-ko@hyper.ocn.ne.jp

赤倉山荘管理事務局（三四会内）
電話：03-3359-0227 FAX：03-3358-0664
e-mail：info@sanshikai.jp

看護医療学部だより

「跳躍の夏」

看護医療学部は、春学期締めくくりの時期です。

4年生は最後の実習を終えました。医療システムアプローチ実習では、グループ発表の後に、フォーラム（討議の広場）でこれからの看護医療に対する意見交換が活発に行われます。彼らの発言に成長と逞しさを感じます。「患者が答えを出せるように後押しをする」「医療の知識を持ちながらその人の生き方を支える」「チーム医療は互いに尊重したフラットな関係性」など、自身の言葉で語っています。彼らの言葉から、4年間の学びが感じられる瞬間です。自分自身が得た学びや価値を核として、複雑で多様性がある現場で逞しくさらなる成長を遂げてくれることを期待しています。



この時期は、新たな息吹を感じる時でもあります。来年度の新生生に向けて、SFC看護医療学部オープンキャンパス（6月25日）を開催しました。当日は700名近い来場者で、熱気あふれた模擬授業や海外研修報告が行われました。ボランティアの在校生が、受験生の質問に対し、目を輝かせて授業や実習について説明をしている姿を微笑ましく感じました。ケアの学びがそこにも表れていました。

夏休みは、学生にとってまたとない海外研修の機会です。世界の政情は極めて不穏で危険をはらんでいます。そのため、看護医療学部では、大学間交流を含め、青田記念教育研究奨励基金等を活用した学部生・大学院生の海外研修事例について、これまでも安全面を配慮した助言・指導を行ってききましたが、治安の問題に加えて近年の致死率の高い感染症の流行についても特段の注意が必要と考えております。今年度より、国際交流委員会による「海外安全管理ガイドンス」の参加を義務付け、国際交流委員の専門性を生かした情報の収集と学生指導を強化しています。世界に目を向けるということは、自身の安全と責任にも目を向けることであると実感し、羽ばたいて行くことでしょう。

（看護医療学部長 小松 浩子）

世代をつなぐ

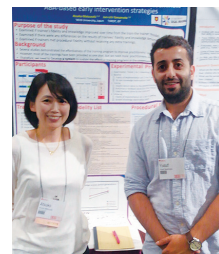
「Link age」

活躍する同窓生

看護短大から始まった歩み

短3回生 松崎 敦子

早いもので、短大を卒業してから20年以上が経ちました。短大時代は、授業や実習で忙しいながらも、サークルや友人との付き合いにも余念なく、非常に充実した3年間を過ごすことが出来ました。卒業後は、希望が叶ってGICUに就職することができましたが、最初は知識も技術もなく、ただただ不安と緊張を感じる日々でした。そんな毎日をなんとか乗り越えられたのは、先輩方の忍耐とご指導に加えて、同期の存在が非常に大きかったと思います。寮に入っていましたので、毎夜のように皆で集まっては、互いに励ましたり慰め合ったり、知識の共有をしていました。今となっては本当に良い思い出です。3年勤務して病院を退職してからは、アメリカの大学に5年間留学しました。その時も慶應時代の友人が代わる代わるお土産を抱えて遊びに来てくれました。帰国後は、発達障害の支援に関する知識と技術を深めるため、慶應義塾大学の社会学研究科（心理学専攻）の修士・博士課程へと進み、現在は慶應の先端研究センターに研究員として勤務しています。短大に入学した時には想像もしていなかった人生となりましたが、短大や病院で学んだ知識や経験、多くの出会いが私の人生の大きな軸になっていることは間違いありません。また、学問も看護・心理・教育と複数の分野に関わってきましたが、そこに共通しているのは、ナイチンゲールの言葉、「人間とは何か、人はいかに生きるか」ということを深く考えて行動することだと思っています。これからは教わった多くのことを社会に還元していく時期だと考えています。今回このような機会をいただいたことで、同窓生の皆様とまた新たな絆が生まれれば嬉しい限りです。



訪 問 看 護 師 募 集

～ 今までの経験を地域に貢献したいあなたに ～

一般社団法人 中野区医師会訪問看護ステーション

TEL 03-3384-1480 FAX 03-3384-3690

E-mail : nakanons@guitar.ocn.ne.jp

〒164-8558 東京都中野区中野2丁目27-17

担当：遠藤

※臨床経験3年以上の方

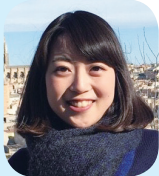
自己研鑽の費用として年間4万円を支援



2016年3月卒業の看護医療学部12回生新入会員の紹介

堀川 真木子

慶應義塾大学病院



私は現在慶應義塾大学病院の1号棟5階(NICU・GCU)で働いています。生まれて間もない赤ちゃんが懸命に生きる姿や、赤ちゃんに触れるご家族の笑顔に日々出会い、新しい生命が周囲に与える幸せや生命の尊さについて大変考えさせられます。言葉のキャッチボールができない赤ちゃんの視点に立ってケアすることに難しさを感じ悩むこともありますが、先輩から助言を頂きながら精進している日々です。そして何よりも、赤ちゃんやご家族が安心した穏やかな表情を見せてくれることが原動力となっています。これから、赤ちゃんや家族に寄り添ったケアを行える看護師に成長していきたいと思っています。

黒堀 真由

ケアプロ株式会社 在宅医療事業部
ケアプロ訪問看護ステーション東京



私は、ケアプロ株式会社の在宅医療事業部で訪問看護師として働いています。弊社は学部1回生の川添高志社長が起業し、在宅医療事業部では24時間365日対応に加え、新卒訪問看護師の教育にも力を入れています。丁寧に指導して下さる先輩方や、互いに支え合える同期にも恵まれました。今の私の業務は先輩との同行訪問が主ですが、先日初めて一人での訪問を経験しました。看護師としての責任と自分の未熟さを感じ、より成長しようと気持ちを新たにしました。毎回の訪問を大切にして今後も努力し、新卒訪問看護師としてのキャリアを築いていきたいです。

小野 和佳奈

東京大学医学部附属病院



この春、東京大学医学部附属病院に入職いたしました。配属先の精神神経科では、精神疾患だけでなく、発達障害や摂食障害、その他様々な身体合併症をお持ちの患者さんと関わらせていただいています。慶應看護で学んだ看護の本質は、臨床の現場においても生活の場においても、すべての原点となることを実感し、それをもとに新たな発見や挑戦ができる喜びを日々かみしめております。まだまだ未熟者ですが、人の人生に関わらせていただくことに常に感謝しながら、広く深く物事を学び、プラスのちからを引き出せる人間を目指します。

第39回 紅梅会研修会のお知らせ

「チーム医療にも役立つ 最強医療コミュニケーション『なんでやねん力』」

今回のテーマは“医療×笑い”です。

日本初の漫才式セミナー講師として活動し、“笑い”を活用したコミュニケーション術の第一人者として、全国の企業・病院・学校などで研修・講演を行っている W マコトさんを講師にお招きします。医療の現場で不可欠なコミュニケーション力を、笑いながら身につけてみませんか？

会員の皆様はもちろんのこと、医療従事者の方々、医療と笑いに興味・関心をお持ちの方など、多くのご参加をお待ちしております。

日時 2016年10月28日(金) 18:00～19:30 (17:30受付開始)

場所 慶應義塾大学信濃町キャンパス 孝養舎 202教室

参加費 無料 **対象** どなたでも参加できます

講師ご紹介

Wマコト (中山 真氏、中原 誠氏)

【プロフィール】 吉本総合芸能学院 NSC の出身で、吉本興業の劇場を中心に漫才活動、「ユニバーサルスタジオジャパン」にて MC 活動などを経験。その後、放送作家に転身し、現在はテレビやラジオの企画・構成、イベントやライブの MC などを務める。

医療界では、第44回・第45回日本看護学会・看護管理・学術集会、第16回日本医療マネジメント学会などで講演を行い、教育界では、東京大学・京都大学・同志社大学などでゼミや講演を担当。2014年の春には教育機関認定のコミュニケーション教材を発行し、様々な現場で活用されている。



卒業 55 年喜寿の会

43 回生 村尾 イミ子 (旧姓 本郷)

43 回生の私たちは、今年卒業 55 年の節目にあたり、何と喜寿を迎える年になった。そんな嘘のようなお話は、遠くの島に置いてきて、花の季節、丁度櫻が満開の上野東天紅で、クラス会を開いた。花に負けない賑やかな会だった。

もともと同期は 24 名と少なかったが、その内 11 名が集まり、元気にお喋りが続いた。さすがに、もう仕事人間は卒業して、ヒマラヤトレッキングに行く人、アイスダンスを楽しんでいる人、テニスやゴルフをやっている人、ピースボートで世界を旅する人、絵を描いたり、詩を書いたり、それぞれ趣味を楽しんでいて生き生きとしている。「ちゃん」呼びや、呼び捨ての名前で言葉が飛び交い、今の名字はなかなか出てこない。

卒業の年に担任だった福岡先生が亡くなられたので、会の後に、有志で永福寺にお墓参りに行った。今日のこの賑やかな会をどこかで見ていて下さるような気がしている。

写真左から 西山敏子 松崎喜恵子 大野圭子 高見沢幸子 中原恵 江橋照子
村尾イミ子 田原幸子 増澤昌子 佐藤芳子 (撮影：上田昇子)



卒業 25 年の同窓会

短 1 回生 江村 晴子

私たちは 1988 年 4 月に開校した看護短大に入学し、当時新築の孝養舎の教室で学び、1991 年 3 月に卒業、今年で卒業 25 年を迎えました。1991 年三田会で卒業 25 年記念事業として大同窓会が開催される機会に、大学病院で勤務している同級生のうちの 8 人が実行委員として企画・準備をしてくださり、3 月 20 日の午後に卒業以来 3 回目の同窓会が行われました。当日は桜の開花が待たれる、暖かくお天気に恵まれた日でした。会場のホテルニューオータニのレストランに、一緒に卒業した 104 人のうち 57 人が集まり、担任の藤村龍子先生もご臨席賜ったので、とても盛大な会となりました。

前回の同窓会からは 6 年ぶりでしたが、卒業後初めて同窓会に参加した人もいて、「四半世紀ぶりなのね、月日が経つのは早いね。」など終始賑やかでした。スパークリングワインとビュッフェのお料理を楽しみながらおしゃべりしたり、皆さんの「ひと言スピーチ」を聞いて、様々な場で活躍していることがわかったりと、楽しい 2 時間半はあっという間でした。

同窓会の終了後は、同ホテルの大宴会場で開催された大同窓会にも短大 1 回生の 21 人で参加しました。1991 年に慶應義塾を卒業した約 7000 人のうち 2000 人が参加していたとのことで、会場は熱気に包まれていました。応援指導部のステージでのパフォーマンスで盛り上がり、肩を組み合せて「若き血」を大合唱したりと、慶應義塾で学生生活を送ったことを思い出させてくれました。

すっかり暗くなった帰り道、ホテルから四ツ谷駅までの外堀通りでは、桜がちらほらと咲き始めていました。つぎはどんな道を進む 25 年になるのでしょうか。かけがえのない仲間と過ごせた幸せな 1 日でした。



ユニフォームの時は、
いつも以上の私。

プロを輝かせる服。
KAZEN
www.kazen.co.jp

一緒に、慶應の看護を創りませんか！

2018年の新病院棟開設に向けて、
当院での勤務経験のある看護師を
随時募集しています。
お気軽にご連絡下さい。



慶應義塾大学病院

〒160-8582 東京都新宿区信濃町 35 番地

TEL : 03-5363-3719 (看護部直通)

「慶應連合三田会大会のお誘い」

今年も慶應連合三田会大会が2016年10月16日(日)、日吉キャンパスで開催されます。本年度は、紅梅会も慶應看護100年記念事業と共同で「慶應看護100年のあゆみ」として、展示会を行います。

当日は、慶應看護100年年表や時代の流れとともに変遷してきた白衣などの服装史のパネル、これまでに収集した資料のうち卒業アルバム(1925年～)や紅梅会会報などの展示を予定しています。紅梅会会報は1934年に創刊されて以来、戦時中の休刊時期を除いて今号まで一つも欠けることなく保管されていました。会報には、当時の看護の時代背景や諸姉の功績が語られ、慶應看護100年の歩みを伝える貴重な資料となっています。是非、会場でこれらを手にとって昔を懐かしみながら次世代へ慶應看護の継承を語りあいませんか?皆様のご参加をお待ちしております。



(82回生 安田 恵美子)

2016年度紅梅会役員・委員

会長	☆茶園 美香 (66)	研 修	☆林 芽衣 (学10)	準 備	☆古瀬真理子 (学5)
副会長	安田恵美子 (82)		川崎 笙子 (学10)		☆井上 由貴 (学10)
書記	寺島比呂子 (短10)	編 集	☆佐藤 礼美 (学11)	役員推薦	◎今井亜矢子 (短5)
	☆大脇 慶子 (短10)		◎葛城 建史 (学1)		☆工藤 真純 (短5)
☆北園 裕弓 (短11)	☆渡邊 開 (学3)		☆清野 由美 (短12)		
会計	福地美寿子 (短7)		山口 尚子 (短3)		◎清水 信輔 (学1)
	☆奥野みゆき (学3)		八木友紀子 (短6)		☆磯部 知愛 (短2、学1)
会計監査	赤木 紀子 (短9)		小野寺 眸 (学6)		☆杉浦なおみ (短2)
	☆篠田 美保 (短11)		☆泉 早紀 (学9)		中尾真由美 (短3、学1)
研 修	◎二田水 彩 (学1)		☆長谷 理奈 (学9)		☆井上 裕美 (学10)
	☆菊池 奈津 (学7)		◎江河 都美 (84)		浅田 頼子 (68)
	濱田 有紀 (学8)		武野 宏子 (短4)		

() : 卒業回生 ◎ : 委員長 ☆ : 新役員・委員

紅梅会事務局より

会報はメール便でお送りしております。住所・氏名等を変更された時は、必ず事務局までご一報下さい。不在の場合は留守番電話にメッセージをお願いします。

平成25年版会員名簿の在庫があります。購入ご希望の方は電話またはFAXで事務局までお申し込みください。
(68回生 浅田 頼子)

事務局在室時間 月・木曜日 13時～17時 直通電話・FAX 03-3341-8116

2017年前期「特選塾員推薦」受付中

2001年4月から、特選塾員規約の一部変更により、厚生女子学院卒業生も特選塾員となるできるようになり、今までに254名の方が紅梅会推薦により特選塾員とされました。塾員であるということは慶應義塾卒業生のメンバーとして塾員間の交流ができるようになり、多彩なメンバーとの交流もできるようになります。

紅梅会推薦として手続きいたしますので、ご希望の方は「氏名・ふりがな・生年月日・現住所・電話番号・勤務先・回生または卒業年月」を明記して、紅梅会事務局に郵送またはファックスでお送り下さい(2月28日締め切り)。

今回申込みをされた方は5月末頃の決定通知となります。なお不明なことは紅梅会事務局にお問い合わせください。

紅梅会 HP アドレスが変更になりました

新アドレス : <http://keio-koubaikai.la.cocacn.jp/>

さらに充実したHPを作成してまいりますので、引き続き、ご覧ください。

計 報

19回生	濱田 其の(旧姓村田)	2013年5月12日
助21回生	森田 安子	2016年1月23日
24回生	船場 宮子	2016年2月27日
36回生	加瀬 貞子	2015年8月18日
38回生	中村 静江(旧姓高橋)	2016年2月27日
		2016年7月14日現在

編 集 後 記

4月14日に発生した熊本地震では多くの方々が被災し、不自由で不安な日々を過ごされていることと思います。被災された方々の一日も早い復興を心より願っております。

紅梅会編集委員会では、皆さまのご活躍をお伝えするとともに、会員の方々からの近況報告、同窓会報告、紅梅会へのご要望等をお待ちしております。よろしくごお願い致します。編集委員長 学1回生 葛城 建史